

平成三十年度第三十一回夕暮祭短歌大会入賞歌

秦野市長賞

(敬称略)

丹沢に雪形兎二つ三つ春の声聞き山駆けのぼる

神奈川県平塚市

星野 一英

秦野市教育委員会教育長賞

廃校の体育館の扁額に父の作詞の校歌がありぬ

京都府京丹後市

赤岩 邦子

秦野短歌会会長賞

足癒えて踏みしめる土のあたたかし声かけ合ひて夫と薯を植う

神奈川県秦野市

今井 和子

秦野中ロータリークラブ会長賞

眼下まなしたに水木樹林のゆれやまず仙人掌われに風の道見ゆ

神奈川県厚木市

篠崎 俊二

村岡嘉子選者賞

肩書きも仕事も離れた人となりたるあまたバス停に立つ

大分県大分市

岸本 恵美

山田吉郎選者賞

あのひとの鼻梁のやうな稜線をしづかにかすめ消ゆる旅客機

大阪府大阪市

東風 めかり

佳作

泣き出せば子へ駆け戻る稲刈女赤ん坊は蒼穹を蹴る

愛知県東海市

斉藤 浩美

地平線好きの子になれ肩車 未来が見える向日葵畑

千葉県柏市

渡会 克男

手をつなぎ万燈籠に浴ひゆけば鹿の眼光る闇迫りくる

奈良県奈良市

堀ノ内 和夫

無意識に進路の話遠ざけて氷いちごをつついて崩す

東京都日野市

明石 望由

この空のはしからはしまで掬えるとペランダに立つ職終えし朝

鳥取県東伯郡琴浦町

中本 久美子

時待てば待つほどにただ星明かり深くなる夜に君の名を呼ぶ

埼玉県所沢市

坂井 傑

調律を終えてピアノの試し弾き子犬のワルツとなりのトトロ

神奈川県愛甲郡清川村

藤田 千代子

帆をたたみ風と別れた若者は軽トラ駆つてリアルに戻る

神奈川県小田原市

光田 とよ

象の母ひとみ見開き何か言う子の鼻とりて揺らしながらに

三重県志摩市

浜口 久

うぶすなのわれに手をふる大ケヤキ遠い瞳の中に立っている

大阪府茨木市

吉田 美子

そしてまた世界は朝を迎えている水禽の鼓動 波紋は広がり

山口県下関市

西村 剛

菜の花台に立ちてのぞむよ春かすむいずべぞ夕暮生家あたりは

神奈川県藤沢市

水越 沢子

米寿すぎ卒寿もすぎて其の先の白寿となるも終りたくなし

神奈川県秦野市

直江 英一

連れ合いは会津つぼなり強情の中に豊かな情愛を持つ

神奈川県小田原市

渡辺 一弘

なるがきて「峯坂」あたり童女消ゆ「九月一日」灯火ともしびふたつ

神奈川県秦野市

和田 英夫

米をとぐ音のひびける台所神木のごと母は立ちたる

香川県高松市

増田 盛治

孫五歳ようやく出来た逆上がりスーパーマンもほわりと笑う

東京都世田谷区

狩集 祥子

地球儀を廻せば戦火の国いくつはがゆきまでの人の愚かさ

神奈川県秦野市

細谷 幸子

風そよぐ春の始まり桜咲くそんな春の日僕ら卒業

東京都葛飾区

山脇 航希

油紙の折り目のすぢの白々と去年の鎌をひらくはつ秋

愛知県名古屋市

清水 良郎